



なにしょんな

ふるさと会よりご報告

会長(高松市観光大使)

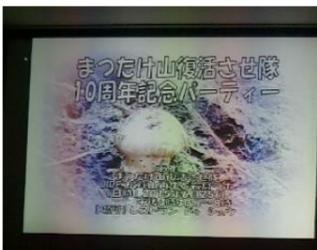
池田 克彦



今年の夏は雨が降りました。お陰で塩江の松茸山にマツタケが3年ぶりに生えました。懐かしい匂いを楽しみました。山の幸に感謝です。さて広報誌

等から以下ご報告です。

1. 6月高松市議会で町出身の佐藤好邦議員が塩江地区にサテライト・オフィスの誘致について一般質問。塩江地区の3小学校跡施設利用の公募の応募状況等みながら効果的な誘致策を検討する。とした市側の回答をえました。
2. 塩江町の6月ホテル祭り(ふるさと会から賛助金3万)8月温泉祭り、11月もみじ祭りが開催された。
3. 会報なにしょんな30号・31号発刊しました。
4. 東京・別海ふるさと会との交流事業(総会・道南の旅・暑気払い・根室旬の秋刀魚祭り・産直フェア)と東京中標津会総会、標津会総会に参加しました。
5. 塩江物語第2作「生きる」島上氏上梓。ふるさと会70冊購入し会員等に配布しました。
6. 6月25日、京都まつたけ山復活させ隊(吉村文彦氏)創立10周年京都駅前タワーホテルで開催され地元後藤さん稲田さんと参加しました。
7. 6月28日、第10回ふるさと会総会・懇親会を都内市谷スクワール麹町で佐藤市議員・高木県東京事務所長・和泉塩江支所長・藤沢塩江観光協会会長ら地元塩江町有志と別海ふるさと会メンバーのご出席をえて賑やかに2年ぶりに開催しました。



プロ歌手 篠路佳子さんにふるさと会総会で司会と歌を歌って頂きました。



8. 6月29日道南の旅(2泊3日)を地元塩江町有志・東京・別海ふるさと会と合同で実施しました。(後述します)
9. 8月、香川ウォーターフロントフェスティバル2015が高松市内サンポート高松で開催された。
10. 8月11日、武田家由来の別子八郎伝説の会立ち上げ企画を山梨県韮崎の武田勝頼・新府にらさき会長高木智朗さんと都内で打ち合わせを実施しました。(大蛇著作者島上さん推薦)
11. 8月12日~14日さぬき高松まつりが開催された。



12. 10月23日高久由紀子さんのシャンソンコンサートが都内新橋ヤクルトホールで開催されふるさと会員が駆けつけました。



13. 10月塩江特産米として新米販売支援を関東・関西エリア向けに実施しました。(2100kg)
14. 10月塩江特産品として松茸山(里山)再生に取り組みマツタケを3年ぶりに収穫しました。



15. 10月31日、武田勝頼・新府にらさき会(高木智朗会長)と武田勝頼土佐の会(岡林照壽会長)と連携した別子八郎伝説の会(塩江上西:藤沢久文会長)をピラ塩江で会立ち上げ式の支援をしました。副会長に光本信一さんと藤沢保さん事務局長に藪内由佳さん。



16. 11月1日塩江文化祭に参加しました。



17. 東京香川県人会が11月4日東京プリンスホテルで開催された。
18. ふるさと会役員会を実施しました。



特集 道南のふるさとの旅

ふるさと会会長 池田克彦
今回は東京・別海ふるさと会のふるさとである北海道の道南、別海町等を我がふるさと会員・地元塩江町の方と別海ふるさと会の面々で合同にて訪問し懐かしい人にも再会し酒を酌み交わしました。6月29日から2泊3日の旅でした。旅に参加された方からご寄稿頂きましたのでご紹介と併せて寄稿の御礼を紙面から申し上げます。又、今回特別寄稿として、高松市塩上町のご出身で今年から会員となられた松本さんとの不思議なご縁でトラック島慰霊に参加させて頂いた体験談をご紹介させていただきます。(菊川丸の勇姿と沈没したソナー画像貼付)

酪農と道東・世界遺産巡る旅に参加して



塩江町 赤松利幸

さる6月28日、スクワール麹町で開催された高松・塩江ふるさと会総会に出席し、会員の皆様と親睦を重ねたあと、翌日より道東・世界遺産の旅に女房とともに参加させていただきました。北海道を初めて訪問したのは今から40年ほど前の学生時代で、夏休みの2か月を活用し、苫小牧や夕張の牧場でアルバイトしながらの北海道一周旅行が思い出され、初めて目にした地平線と広大な大地、まるで白夜のような明るい夜に驚かされたものでした。それ以来、北海道の魅力に取りつかれ、何度も旅することとなりましたが、別海町を訪問するのは今回が初めてでした。旧塩江町時代には産業観光課長として、友好都市である別海町を訪問する機会は幾度かあったものの、スケジュールが合わず、今回やっと念願が叶いました。思い描いた通り、広大な平野と緑の丘陵地、牛の多さに、四国の山奥で育った私にとって、まるで異国に来たような感動を覚えました。夜は、新家会長十八番の芸や別海町幹部の方々の歓待に感激もひとしおでした。知床ではあいにくの雨に遭ってしまったものの、手付かずの自然と、残雪残る知床連山の美しさに、改めて世界遺産を実感し、錦に輝く紅葉の時期にもう一度訪れたいと強く思いました。今回お世話になりました池田会長や会員の皆さん、別海ふるさと会、役場の皆さんに心より感謝致します。塩江の留守を預かる一人として、今後とも精一杯、塩江を良くしていくことが恩返しになるものと、心新たにした次第です。ありがとうございました。(高松市塩江町樺川在住)



別海ふるさと会20周年記念の旅



ふるさと会会員 理事 岡本 幸江
6月28日塩ノ江ふるさと会の総会が東京で有り出席させて頂き、ふるさと会の人達とも久しぶりの再会でした。翌日29日から2泊3日での別海ふるさと会記念の旅、北海道道東方面に今回で2度目の参加で、前回は4年前です。月日の速さを感じます。1日目は中標津空港に降り、釧路湿原に、ここ中標津は根釧台地の中央部とか、見渡す限り緑が続く牧草地帯、長い直線の道(ミルクロード)と言うそうで、そんな道の脇にはキタキツネが驚くこともなく散歩、牛はもちろんのこと鶴に、鹿に、動物達にも良い場所なのか?釧路湿原は想いとは少し違いましたが、涼しい自然道の散策を楽しみました。その夜の夕食はやはり北海道ならではの食材に美味しく頂きました。食後、温泉に国内はもとより国際的にも珍しいようなモール温泉とか、植物性の天然泉、色は茶褐色で天然の化粧水とか、あまり厚くなくゆっくり1日の疲れが癒されました。2日目はあいにくの雨になりましたが、羅臼岳を車窓から眺めながら、知床五湖に、雄大な羅臼岳には、7月なのにたくさんの残雪が残っていて、解けない



ままた冬の訪れる、知床五湖はあいにくの雨傘を差しての見学でしたが、感動しました。最後の日は酪農研究牧場の見学後開陽台に、開陽台の360度パノラマ北の大地と大自然に驚きでした、癒された楽しい道東の旅に、お世話していただいた方々有難うございました。(高松市塩江町上西出身 大阪府富田林市在住)

東京・別海ふるさと会 20周年記念旅行



ふるさと会会員 理事 矢田敏雄
東京・別海ふるさと会 20周年記念旅行として企画された「酪農と世界遺産を巡る道東の旅」に参加しました。北海道は、今まで何度か

訪れましたが、別海への旅は、初めての参加となりました。6月29日から7月1日間の2泊3日間の旅では、「東京・別海ふるさと会」や、「高松・塩江ふるさと会」の皆様と交流することができ、非常に楽しい旅となりました。総会の翌日である6月29日(月)、羽田空港ロビーに集合。11時45分、羽田を飛び立ち、釧路空港に13時20分着。気温は15度。さすがに釧路は肌寒く10度以上の温度差を感じました。早速、大型バスに乗り込み釧路湿原へ。新緑が美しい釧路湿原を一時間ほど散策。夕方、今日の宿である「べっかい郊楽苑」に到着。郊楽苑の温泉には、露天風呂も備わっており、大自然を眺めながらの入浴は心も癒されました。そして、大広間での大宴会。別海町の方々と一緒に地元で取れたホタテ、北海シマエビなど新鮮な魚類を味わう。本場の味はさすがに美味だ。2日目。郊楽苑から大型バスで尾岱沼を目指して海岸線をドライブ。道の駅「おだいとう」では、野付半島や北方領土のひとつ国後島を望むことができました。さらに海岸線をドライブし、知床半島の東側に位置する羅臼町に昼頃到着。ここで羅臼昆布の加工場を見学。



昼食は、羅臼の海鮮炉端での海鮮物。地元の人たちの料理を堪能。午後、知床旅情で知られる知床半島を峠越え。峠付近には、まだ残雪があり冬の厳しさを感じました。午後2時頃、

知床五湖に到着。木道を歩いて約30分。湖畔展望台からは、知床の美しい湖と山々を眺めることができました。そこから、羅臼経由で別海へ戻り、予定通り、夕方、郊楽苑に到着。露天風呂に入浴後、今晚も宴会で交流を深めることができました。



3日目。今日は、旅の最終日。別海酪農研修牧場を訪れ、その後、中標津空港近くのホテルで昼食バイキング。多くの思い出とともに16時15分羽田に無事到着。今回の記念旅行を企画し実施していただいた「東京・別海ふるさと会」の皆様、別海町の役場の皆様の支援、そして「高松・しおのえふるさと会」の皆様、本当にありがとうございました。道東の3日間の旅を心から満喫することができました。(高松市塩江町本町出身 横浜市緑区在住)

道東の旅に参加して



木下雄大
今回、高松塩江ふるさと会の皆様と同行させていただき、初めて道東地区を訪れることができました。新聞・テレビ等メディアを通してしか知らなかった北海道東部地域を実際に自分の目で見、体験し、リフレッシュすることができた3日間でした。旅行中特に感動したのは、知床の山々、どこまでも続く一直線の道路、ごく普通に道路際にいるキタキツネをはじめとする動物達、また数多くの牛たち…。日常とは大きく異なる世界で、見るものすべてにおいて新鮮な感動を得ることができたと思います。さらに夜の宴会では地元の美味・シマエビを食べきれ

ぬほどに頂戴しさらに感動！初めてお会いした別海・塩江双方の皆様や役場の方々と酒を酌み交わし、楽しく過ごすことができました。また機会がありましたら是非皆さんの末席に加えていただき、楽しい旅行に参加させていただければ幸いです。(東京都杉並区出身 埼玉県狭山市在住)



特別寄稿

トラック島戦没者慰霊に参加して



ふるさと会会員 松本 涉
この世の中で人と人の縁ほど不可思議なものはないと言われる。平成24年1月、私はトラック島戦没者慰霊団に参加した。そして帰国して2ヶ月過ぎた頃、都内のあ



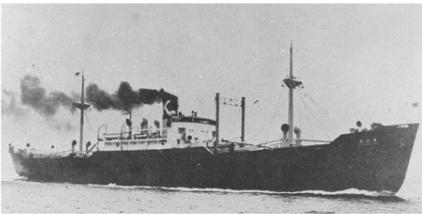
る会場で参加者の懇親会が開催されたが、その時の私の隣が偶然にも池田さんの席であった。その席上、池田さんは近い内に再度トラック島に行く予定だが、その時に私の父が戦死した徴用運送船菊川丸が沈没している海底の調査をしてあげようと言われた。そして帰国後に、トラック島の風景や菊川丸の海底の状況など収めたCDを送っていただいた。赤道直下に近いトラック島の周辺の広大な環礁には、米空軍の爆撃などによって徴用運送船を主として約80隻余の艦船が沈没、犠牲になった多くの英霊達がその海底に眠っています。そしてそこに眠る英



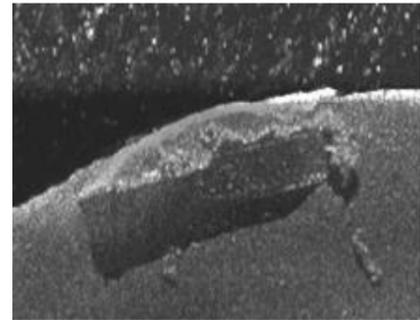
霊達の存在は、今日では日本の国民からも忘却の彼方において消え去ろうとしています。国の為にその

尊い命を捧げた英霊達に対する切々たる哀悼と鎮魂の為に、今が最後の機会と思われて多大な私費

と貴重な時間を投じ、沈没船の現況調査を断行、位置、現況、由来などを再確認して各方面の関係者にその実情を訴え、そして作成した資料を靖国神社に奉納された池田さんには、ただ畏敬の念あるのみです。一方、私はあの東北震災の直後に、偶然のことから大船の徳州会病院で全く予想もしなかった前立腺癌の末期と診断され、家内同席の上で主治医から悪い場合は余命あと半年あまりと実に厳しい宣告を受けました。そこで新しい免疫療法に全力で取り組み、秋には体調もやや回復したので、故郷高松に帰り、家や親類のお墓参りをして親類や友人に私の事情を打ち明けてお別れを致しました。後に残る唯一の切実な願いは、8歳の時に海軍軍属であった父が戦死した最後の場所を探し出して慰霊に行く事でした。父は生れてすぐ母を失った弟の行末をなによりも案じながら南海に散って逝きました。そのたった一つの手がかりは、戸籍謄本に残された「昭和18年10月7日午後10時58分、南洋群島方面にて死亡」との記事だけが頼りでした。そして長年に調査を継続の結果、丁度その頃にトラック島で船火事を起し積荷中の弾薬が爆発して沈没した徴用運送船菊川丸の存在まで辿り着きましたが、私の身の周りの色々な事情でその後の進展は見られませんでした。さて、高松にお別れをして鎌倉の自宅に帰った頃、偶然と呼ぶにはあま



りにも不思議ですが、産経新聞の紙面にトラック諸島戦没者慰霊団募集の記事が目にとまりました。早速応募、そして内地出発前にトラック島の沈没船に関する資料を受取りましたが、その中の英文の海図から父が殉職した菊川丸の沈没日時、位置、由来など詳細な記事を発見、それはまさに



ピタリ戸籍謄本の内容と一致したのです。長年五里霧中で探してきたのに突然その深い霧が晴れて、時空を超えて来た不思議な力に誘われて、気がつくトラック島に辿り着いていたのです。トラック島のホテルのある春島の西側に昔の日本の第四艦隊本部があった夏島があります。今はジャングルと化した昔の日本人街を杖にすぎりながら歩いていると、連日の不眠と体調不良から意識が半ば朦朧となり、奇妙な幻覚に襲われて、私の耳奥にかすかに父の声が聞こえてきました。それでこの島こそ父が最後まで過ぎ

した場所だと確信したのです。春島に帰る途中、菊川丸の沈没場所附近にランチを停めてもらって青く美しい海に花束を捧げて、父の冥福を祈りました。後日、池田さんは七宝という貴重な貝と美しい砂をトラック島から持ち帰られて私宅に届けてくださいました。そのお陰で父の形見として母と弟の眠る新しい墓に納めて、ここに私の戦後70年は終える事が出来ました。合掌(高松市塩江町出身 神奈川県鎌倉市内在住)



た場所だと確信したのです。春島に帰る途中、菊川丸の沈没場所附近にランチを停めてもらって青く美しい海に花束を捧げて、父の冥福を祈りました。後日、池田さんは七宝という貴重な貝と美しい砂を

トラック島から持ち帰られて私宅に届けてくださいました。そのお陰で父の形見として母と弟の眠る新しい墓に納めて、ここに私の戦後70年は終える事が出来ました。合掌(高松市塩江町出身 神奈川県鎌倉市内在住)

事務局よりお知らせ

- ① 来年瀬戸内国際芸術祭 2016 が 3月20日～4月17日：7月18日～9月4日：10月8日～11月6日の春：夏：秋と3回に分けて海の復権と称して瀬戸内の島々で夫々イベントが催されます。
- ② 小豆島町岩谷地区から沖合 6km 位・水深 30m～40m・播磨灘に面した海域で潮流が早い水ノ子礁があります。(大阪城築城のため、石を切り出し大阪へ運ぶため筏で運んできた石を舟に積み替えた場所と言われている)この水ノ子礁を小豆島町役場と同志社大学が世界遺産登録に向け海中調査を行っていますが応援を行う予定です。
- ③ 塩江町地域おこし協力隊の淵崎義之さんが横浜市から応募赴任しコミュニティ協議会に席をおいています。今後ふるさと会との協同活動が期待されます。
- ④ 高松市納税課ふるさと納税担当からふるさと納税の案内がありました。ふるさと納税寄付金が年間5,000円以上、20,000円以上、50,000円以上の場合夫々お礼品が渡される様です。申し込み等問い合わせは電話 087-839-2222迄。
- ⑤ 塩江町歴史資料館が元安原小学校の教室利用で28年度から本格オープンし藤澤東甲岐頌徳碑整備計画(関西大130周年記念事業の一環)等の活動が予定され応援を致します。

編集後記

今年は時間の過ぎるのが早かった感じがします。赤松さんの栽培した米が一段と美味しく、来年もお願いしたい所存です。松茸も豊作で早めに送ってほしいと希望しています。ふるさとの味はいいですね。次号は来年春を予定します。

(編集人 深野裕美子)